

Cross-cultural Engineering Project (CEP)の実施(大宮)

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2023年12月13日 ～2023年12月22日	インドネシア	キングモンクット工科大学 ンブリ校 スラナリー工科大学 ハノイ理科大学 スラバヤ工科大学 タマサート大学 タシュケント情報技術大学	・電子情報システム学科、機械制御システム学科、環境システム学科 ・学部3年生、学部4年生、修士1年生、修士2年生	(芝浦工業大学) 学生50名、学生バイト5名、教員6名 (キングモンクット工科大学ンブリ校) 学生10名 (スラナリー工科大学) 学生2名 (ハノイ理科大学) 学生10名 (スラバヤ工科大学) 学生4名 (タマサート大学) 学生3名 (タシュケント情報技術大学) 学生3名	間野 一則(電子情報システム学科)、渡邊 大(機械制御システム学科)、市川 学(環境システム学科)、村上 嘉代子(電子工学科)、後藤 裕介(電子情報システム学科)、持永 大(環境システム学科)



図1 オープニング

システム理工学部、大学院理工学研究科システム理工学専攻では、システム思考の工学(システム工学)教育プログラムを学部・大学院専攻のコア科目として実施(社会人基礎力を育成する授業30選に選定)している。この教育プログラムの集大成となるプロジェクトがCross-cultural Engineering Project (CEP)である。CEPは日本、東南アジア、ヨーロッパの三地域で実施されている。大宮キャンパスで開催されるCEPは、多国籍・多分野の学生が産学地域連携課題を取り扱う。東南アジア地域はタイのバンコクで実施し、グローバル課題を対象にする。ヨーロッパ地域はポルトガルのリスボンで実施し、イノベーション創出を課題としている。これら3地域のどれかを履修することで単位取得ができる。本年度は12月13日から22日まで大宮キャンパスと那須高原で実施され、世界7カ国・地域から集まった82人が14チームに分かれて分野混成、多国籍チームによるプロジェクトを実施した。プロジェクトチームは、地域やベンチャー企業等がメンターとなった学生主導チーム、地域自治体、大手企業の課題解決チーム、兵庫県中小企業家同友会チームIT神戸、外資企業から提供された課題を解決するチーム、金融機関を通じた中小企業の課題を解決するチームで構成された。また、12月17日から19日までの2泊3日で栃木県那須町にて「那須町のインバウンド観光を促進するデジタル地図サービスの創出」をテーマとしたハッカソンを実施した。学生たちは、那須地区の企業や団体を訪問してヒアリングを行い、発見した地域課題に対して、地図開発プラットフォームMapbox(マップボックス社提供)を用いて観光促進に繋がるデジタル地図サービスを作成、地域のステークホルダーに対して提案を行った。この成果物についてはMapbox社のブログにてレポートされている(<https://www.mapbox.jp/blog/education-shibaura-20231217>)。全体プロジェクトのアワードは、生成AIを地域活性化に取り入れたチームだった。以上、各プロジェクトチームの提案内容は、魅力的なものが多く好評を博し、参加学生たちにとっては有意義な経験と多国籍・多文化交流ができたものとする。



図2 オープニング



図3 プロジェクト活動1



図4 プロジェクト活動2



図5 試作発表



図6 集合写真